

# くすのき



母里小 学校通信  
令和5年度10月号②  
(令和5年10月12日発行)  
No.9(620号)

## 令和5年度 母里小学校『全国学力・学習状況調査』の結果について

今年4月18日(火)に、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された『全国学力・学習状況調査』の、本校の結果・分析についてお知らせします。なお、序列化や過度な競争につながるような数字を提示しての報告ではないことをご理解いただきますようお願いいたします。

【国語】全国・兵庫県の平均をやや下回る結果でした。 ○ 成果があった点 ● 課題がある点

### ① 言葉の特徴や使い方に関する事項

普段の生活の中で、相手と自分との関係を意識しながら、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことを意識することができています。しかし、尊敬語と謙譲語の役割を理解することが不十分です。今後も、尊敬語や謙譲語についての理解を深め、正しく敬語を日常の中で使用できるように指導していきます。

- 日常よく使われる敬語を理解している。

漢字に関しては、漢字を文の中で正しく使うことはできていません。作文や授業のノートなど書く活動の中で積極的に漢字を使うことはもちろん、漢字の学習をする際に、その漢字を使った様々な熟語・言葉に多く触れること、間違いやすいポイントをおさえながら、正しく意味を理解し、使うことができるように引き続き、指導していきます。

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

### ② 情報の扱いに関する事項

図やグラフとの関係について、線を引くなど重要な言葉、根拠となる言葉を意識しながら読み取ることを継続して取り組んだ成果として、短い文章の中で、情報と情報との関係について、読み取ることができています。今後さらに、観察や実験、調査の結果などを記述する際には、図表やグラフを用いる取組を充実させることで、自分の考えを深めたり、相手にとってよく理解できるものにしたりすることが必要です。

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができる。

### ③ 話すこと・聞くこと

「話すこと」においては、高学年になり、学校行事や委員会活動を中心に、全校生に向けて自分たちの考えを伝える機会が増えました。その際、自分たちの学校の課題を取り上げ、提案した活動を何のために行うのかと

いう目的を明確にしながら伝えられるようになってきています。

しかし、「聞くこと」においては、話し手の伝えたい内容を正確に捉えることが苦手な児童が多いです。話し合い活動などを通して、話し手の伝えたいことをしっかり聞き取り、話し手の考えと自分の考えを比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめる力をつけるための指導をしていきます。

- 話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
- 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。

### ④ 書くこと

自分の思いや考えを書き表すことが苦手な児童が多いです。自分の考えを明確に伝えるためには、図表やグラフなどを用いるなどして書き表し方を工夫することが大切です。さらに、自分の思いや考えを伝えるためには語彙の習得も必要です。自分の思いや考えを書き表す活動を多く取り入れ、お互いに書いた文章を読み合う活動を取り入れながら、相手に読みやすく、内容が伝わる文章が書けるよう指導していきます。

- 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

### ⑤ 読むこと

文章を読んで、何について書かれているかを大体で捉えることはできています。しかし、目的に応じて中心となる情報を見つけることなど、詳しく読み取ることができていません。また、文章の中から、設題に合わせた必要な情報を取捨選択したり、整理したりすることが大切です。授業の中で、資料と文章を結びつけて、筆者が何を伝えたいかなど内容を把握できるように指導していきます。

また、朝の学習の時間や週末読書(家読)などを活用し、読書活動を積極的に取り入れ、様々な分野の作品に触れる機会を増やしていきます。

- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。
- 目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることができる。

【算数】全国・兵庫県の平均をやや下回る結果でした。 ○ 成果があった点 ● 課題がある点

### ① 数と計算

数量の関係に着目して問題場面を正しく解釈し、数学的に表現・処理することや、計算に関して成り立つ性質を基に計算の仕方考えることは、日ごろから文章問題を丁寧に分析し読みを深める習慣が、授業でできているため、正確に回答を導き出すことができています。

しかし、筆算を形式的に覚えているために、十の位にたつ商を視覚的に一位数と思い込んでまちがえるなど、基本的な部分での勘違いがありました。今後は、どの学年においても筆算の意味を分析しながら、計算の基礎を振り返りつつ、問題に取り組んでいく姿勢を育てていきます。

- 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算ができる。
- 場面と関連付けて、式の意味を読み取ることができる。

- 日常生活の場面を解釈し、数量の求め方を数学的に表現することができる。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる。
- 除法の筆算について、計算に関して成り立つ性質や図を基に各段階の商の意味を考察することができる。

## ② 図形

基本的な図形概念や直線の位置関係については理解できていますが、少しひねった（折り曲げた紙を広げるという操作が入る）問題で間違った児童が多いです。問題に対する先入観が勘違いを引き起こしていると考えられるので、似たような問題を授業で扱ったり、実際に紙を切り貼りしたりするなどの数学的活動を充実させる必要があると考えます。また、三角形の面積の公式では、高さが同じであれば、底辺の長さで面積の大小の比較ができることを、より丁寧に指導していきます。

- 台形や正方形、正三角形の意味や性質について理解している。
- 図形を構成する要素やそれらの位置関係を基に、図形の構成の仕方を捉えることができる。
- 図形を構成する要素などに着目し、基本的な図形の面積の求め方から面積の大小を判断して、その判断の理由を表現することができる。

## ③ 変化と関係

伴って変わる二つの数量が比例の関係にある事を見抜いて正しい計算方法を導くなど、変化と関係領域における基本的な技能は身につけています。しかし、百分率で表された割合から対象の値を導くなど、実生活にいかされるべきところで勘違いがあるなど、応用能力が十分に養われていません。普段の身近な生活の中から、百分率を使った問題を積み重ねることで、百分率や歩合を使いこなせるような授業を進めていきます。

- 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。
- 伴って変わる二つの数量の関係について、表の中の数を用いて変化の特徴を考察することができる。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方を表現することができる。
- 日常生活の場面と関連付けて、百分率で表された割合について理解している。

## ④ データの活用

全体的にデータの活用能力が低いです。「以上」「以下」「未満」などの言葉の意味がしっかりと身につけていない児童がいます。また、特定の条件下のデータを見つける時に、その条件の意味が分からずに、全体に関するデータを抽出してしまうなどの基本的なミスが目立つ結果となりました。スマホやタブレットなどで日常的に多数のデータを扱えるようになる今日、そのデータを正しく読み取り、見極める能力は極めて重要になってきます。そのためには、総合的な学習などの時間を有効に使って、データを児童自らが発信していくことも有効だと考えます。今後、新聞作りなどを通して多くの情報に触れさせ、活用させていきます。

- 「以上」などの意味を理解し、データを分類整理することができる。
- 複数のグラフからデータの特徴を捉え、見出したことを表現することができる。
- データの特徴や傾向から導いた結論について、表から根拠となる数に着目することができる。

## 【 学校・家での様子 】 児童質問紙より

### 高い項目

- ① 「朝食を毎日食べている」、「毎日同じくらいの時刻に起きている」、「同じ時刻に寝ている」と答えた児童の割合が高く、基本的な生活習慣が確立されている児童が多いです。これは、毎年同様の傾向が続いています。
- ② 「自分には良いところがあると思う」、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」の質問には【当てはまる】という割合が高く、児童と教師との関係が良好な状況にあると考えられます。
- ③ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」、「今住んでいる地域の行事に参加している」、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」の質問にも【当てはまる】という割合が高いです。日頃から、地域の行事や体験講座への参加率は高く、様々な体験を通して、地域のつながりを肌で感じ、自分の役割で貢献したいという意識が醸成されていると考えます。
- ④ 「普段（月～金）の1日当たりの読書時間」、「学校図書館・図書室、地域の図書館に行く回数」については、全国・県平均よりも高く、日頃から本に親しみ、読書好きの児童が多いことが分かります。

### やや低い項目

- ① 「友達関係に満足していますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の質問に、【どちらかと言えば当てはまらない・当てはまらない】の割合が高いです。友達関係で悩んだ時に、教師に相談しづらく、悩みを抱え込んでしまう児童がいることを想定しながら、日頃から児童の言動を見守っていくことが必要であると考えます。
- ② 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」では、【よくしている】の割合が、全国・県平均と比べて低いです。また、学校の授業時間以外、普段（月～金）・土日とも、1日当たりの家庭学習の時間が少なく、これは、昨年も同様の傾向でした。習い事やスポーツ、地域行事に参加している割合は高いため、学習に割く時間が必然的に少なくなっているとも考えられます。平日の帰宅後や休日の時間の使い方について、家庭とも連携しながら、児童自身で考えさせていく必要があります。
- ③ 国語、算数とも、「勉強は大切で、将来、社会に出た時に役立つ」と考える割合が高い反面、「勉強はあまり好きではなく、授業の内容が分かりづらい」という割合も高いです。ICT機器を効果的に使用し、児童の学習意欲を喚起し、学びがより深められるよう、授業改善に努めていきます。